

平成20年10月号



むくみ

医療法人将優会 クリニックうしたに
理事長・院長 牛谷義秀

むくみとは血液の中の成分(血漿)が血管の中けっしょうから外へにじみだし、異常に増加した状態で「浮腫」とも呼ばれています。脛の前面を数秒間押して離れた後にくぼみを残しながら元にもどらなければ、むくみと考えられます。むくみを気にして病院を訪れる方は意外に多いものです。むくみはいったいどのようなことが原因でおこるのでしょうか？

1. むくみの分類

エレベーターガールなど、一日中立ちっぱなしの仕事をしている方は、若い人でも夕方になると「靴が入らないくらい足がむくんだ」という会話はよく耳にします。しかしながら、むくみはさまざまな病的要素が複雑にからんでいて、内臓の病気のサインであることもあるので注意したいものです。むくみは起こる場所によって全身性浮腫と局所性浮腫に分けることができます。

2. むくみの原因疾患(図1 参照)

I. 全身性浮腫

1. 心(臓)性浮腫

■ 心不全

心不全が強くなると、呼吸困難と疲れやすさ、浮腫などの症状が出現します。心臓に何らかの病気が生じ心臓の予備力がなくなり循環を維持できなくなった状態です。心筋梗塞や心筋炎、拡張型心筋症、リウマチ性心弁膜症など、さまざまな疾患が心不全の原因となります。

■ 肺性心

気管支喘息や肺気腫といった慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患や肺動脈性肺高血圧症・肺血栓塞栓症など肺高血圧症をきたす疾患から、右心室の肥大や拡張を生じた病態であり、浮腫の原因となります。

2. 肝(臓)性浮腫

■ 肝硬変

肝硬変はウイルス性肝炎やアルコール性肝障害が基礎疾患となって肝硬変になることが多く、肝障害の終末像と考えられます。肝硬変では浮腫のほかに、腹水や出血傾向がみられ、食道静脈瘤じょうみゃくりゅうや黄疸おうだん、意識障害などを起こすこともあります。

3. 腎(臓)性浮腫

■ 急性・慢性腎炎

急性、慢性の経過の中で蛋白尿・血尿が出現し、浮腫、高血圧、腎機能障害をきたす症候群です。

■ 糖尿病性腎症

糖尿病性腎症は神経障害、網膜症とならんで糖尿病の三大合併症の1つであり、糖代謝異常により発症し、慢性の経過をたどります。糖尿病性腎症は毎年新しく血液透析を受けなければならない人の最も大きな要因となっています。

■ ネフローゼ症候群

腎臓しきゅうたいの糸球体とうかせいこうしんの透過性亢進により血液中の蛋白質たんぱくしつが尿中へ漏出(蛋白尿)した結果、低蛋白血症・低アルブミン血症がおこり、浮腫や高脂血症などを特徴とする疾患群の総称です。

■ 慢性腎不全

何らかの原因で腎臓の機能が慢性ふかぎやくてきに不可逆的(正常に戻れない)に低下し、生体の恒常性の維持が困難になってきたために、血液透析などを考慮すべき状態となります。

4. 内分泌性浮腫

■ 甲状腺機能低下症

甲状腺自体に機能不全がある場合や甲状腺摘出などの原因により甲状腺機能が低下するために顔や足の浮腫、寒がり、脱力感、体重増加、筋肉のこむら返りなどが見られます。

■ クッシング症候群

慢性的に副腎皮質ホルモンが過剰となる疾患で、浮腫のほか中心性肥満まんげつようがんぼう、満月様顔貌、筋力低下などが見られます。

5. 栄養障害性浮腫

■ 蛋白漏出性胃腸症

血漿蛋白、特にアルブミンが腸管内へ異常に漏出するために生じる低蛋白血症が原因でもたらされる症候群です。蛋白漏出ろうしゅつの要因として①消化管のリンパ系異常、②毛細血管の透過性亢進こうしん(膠原病、アレルギー性腸炎)、③炎症・潰瘍や腫瘍性増殖など、粘膜上皮の異常をともなうもので炎症性腸疾患や胃粘膜が著明に肥厚するメネトリエ病などがあげられます。

全身性浮腫	
心(臓)性浮腫	慢性心不全、肺性心
肝(臓)性浮腫	肝硬変、肝不全
腎(臓)性浮腫	急性・慢性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全
内分泌性浮腫	甲状腺機能低下症、クッシング症候群
栄養障害性浮腫	蛋白漏出性胃腸症、メネトリエ病、ビタミン B1 欠乏症 悪性腫瘍などによる低栄養状態

II. 局所性浮腫

1. がん性浮腫

- 骨盤内を占拠する子宮がんや卵巣がん、大腸癌、前立腺がんは心臓へのリンパ液や血液の還流を阻害することがあり、下肢の浮腫の原因となることがあります。また、一部の肺がんでは急速に上大静脈が圧迫されて静脈環流異常を招き、顔面・上肢の浮腫が出現します。

2. リンパ性浮腫

- がんの治療では転移を防ぐために、手術でがんとともにリンパ節を切除するか、または放射線照射でリンパ節の機能を失わせます。リンパ管を流れるリンパ液は不要な体液やたんぱく質を心臓にもどす役割を担っています。しかし、乳がんや婦人科がん、前立腺がんなどの手術や放射線治療でリンパ節の機能が損なわれるとリンパ液が停滞し、水分やたんぱく質が皮下組織に留まり硬くなり、リンパ浮腫と呼ばれています。

3. そのほか

- 静脈血栓症・静脈瘤による静脈性浮腫、蕁麻疹や湿疹などアレルギー性浮腫、虫さされやケガなど、炎症をおこしている箇所に見られる炎症性浮腫、変形性膝関節症や関節リウマチに見られる高度の膝の腫れなどもむくみの原因として挙げられます。

局所性浮腫	
がん性浮腫	心臓への還流を阻害する悪性腫瘍
リンパ性浮腫	乳がん、子宮がん、前立腺がんなどのリンパ節切除後
静脈性浮腫	静脈血栓症、静脈瘤
アレルギー性浮腫	蕁麻疹など
炎症性浮腫	虫刺されや外傷など、炎症をおこしている疾患
関節症	変形性膝関節症、慢性関節リウマチ

3. 最後に

顔や足のむくみに気づいて受診されることが多いものの、実際にはそれが全身症状の一部であることがあります。時として重大な疾患が隠れていることがあるので、むくみの原因が何なのか、早めに検査を受けましょう。

図 1 浮腫に対する検査とさまざまな疾患

